

⑤ 2024年問題への取組みについて

	三重西濃	東京西濃	西濃通運	昭和冷蔵	エコアライアンス
新たに取組みした内容 (テーマ)	<p>【路線乗務社員・貸切乗務社員の時間管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラウド型のデジタコを導入し、拘束時間や休憩時間の取り方等、指導を行う デジタコより算出した残業時間を個人ごとに毎月一覧表（年間残業推移表）を作成し、情報共有を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 残業時間を抑えるため社員と備車の増員を進める。また、その為に採用を強化する。2024年までに年間の残業時間を960時間以内に抑える体制を構築する 	<p>【自社改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路線運行を現業社員の活用（乗務員の荷役を現業社員が一部担当する）により、2車1名運行のコースを作成 <p>【他社改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> モーダルシフトの推進により、2024年問題で運行不能になる既存運行を改善 	<ul style="list-style-type: none"> GMSの冷凍センター業務を受託しているお客様と月一の定例会を実施→その中で2024年問題について課題とその対策の協議を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 乗務員増員による運行時間の緩和 受託コースのローテーション化を進め乗務員の拘束時間の偏差を無くす 独自のコース設定、輸送モードの構築による運行時間の緩和への取り組み
効果・実績について	<ul style="list-style-type: none"> ドライブレコーダーの映像を随時取得出来、また、長距離運行時の拘束時間、休憩時間の管理等、スピーディーに把握、対応が出来るようになり、休憩取得場所や、運行時間を指導出来るようになった。稼働日数にもよるが、5月は4月より残業時間が短くなっており、残業時間を延ばす行為は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> 特に残業時間が多い成田支店において、4名の増員（社員2名、備車2名）に成功し残業時間も1人当たり20～30時間の削減効果が出ている。また、午後の空いた時間で利益を生み出すため、新たな集荷案件の獲得に動く負担が減ったことで精神的な余裕も出てきているように見受けられ、更なる対顧客や荷扱いといったサービス向上を目指す 	<p>【自社改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月を目標に実施 <ul style="list-style-type: none"> 組み合わせたコース <ol style="list-style-type: none"> 津島～大垣、大垣～奈良 名古屋～大垣、大垣～沼津 2車1名により、2名の乗務員を確保し、残業時間が80時間オーバーしているコースを複数人で運行し、残業時間を平準化する <p>【他社改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2024年問題により、大型車での長距離運行ができなくなるため、フェリーによるモーダルシフトを提案中。お客様の2024年問題を解消する 	<ul style="list-style-type: none"> 入庫車両の待機時間調査開始 入荷受付～作業終了（受領印渡し）までの時間を調査及びデータ化 →入出門時間の管理情報を共有 リードタイムの延長を検討開始 現在のリードタイム前々日夜発注から、前々日昼発注にしたときにコストダウンが可能かについて検討開始 入荷→在庫→出荷→仕分→納品→販売 ※工程毎に検討を実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> ローテーション化、輸送モード構築の為に自車乗務員の確保および育成 ローテーション化による累計運行時間の調整→38人中25名が対応 増員状況は前年比5名増員